

## 平成20年度「市川海岸塩浜地区護岸検討委員会」 第2回勉強会の開催結果概要

1. 日 時 平成20年12月16日(火) 17時00分～18時30分
2. 場 所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 27名(委員8名、一般6名、県1名、関係者5名、事務局7名)
4. 座 長 遠藤茂勝委員
5. 次 第 1) 護岸バリエーションの検討について  
2) 護岸の施工状況について(石積みの工夫)  
3) その他

### 6. 概 要

#### 1) 護岸バリエーションの検討について

- ・護岸バリエーションに期待する機能などに関して、各委員が自由に意見を述べた後、意見交換を行った。

#### [主な意見]

##### 利用・親水

- ・バリエーションの設置場所は、アクセス性を考え中央部、両端部が良いと考える。
- ・約800m間(改修範囲)を一体的に親水ゾーンとして検討すべき。
- ・海面にふれあえる立ち入り場所を設ける。
- ・三番瀬再生計画の一環なので、海と陸との連続性にこだわり親水の場の確保が必要。
- ・西側は「砂浜ゾーン」として階段状の石積みを多く取り入れたい。東側は「磯遊びゾーン」として釣り場の設置を。
- ・親水エリアは管理可能な小範囲にとどめ、他はプロムナード等から遠望する場(バリエーションは不要では)にすべき。
- ・展望場所、釣り場、遊歩道、トイレなどの整備により海にふれあえる工夫をすべき。
- ・回遊するためには、2丁目、3丁目を一体的につないだルートが必要である。
- ・「海とのふれあい」を希望する人が多いので、基本的には砂浜整備を望む。
- ・護岸の変化、利用面を考え、A.P. + 2.5m ~ A.P. + 3.0mの位置に幅2m ~ 3mの平場を全体の半分くらい設ける。
- ・護岸のスロープは最大限緩やかな石組みによる勾配をとるべき。手すりを使わなくても降りられるようにする。
- ・水際線に対して平行に降りていくアプローチを。
- ・誘導員の配置を前提とすれば、多少危険なバリエーションでも問題ない。

## 景観

- ・全体景観に貢献するよう緩やかな自然系の立体的フォルムを形成する必要がある。
- ・人口的な直線部分を無くす配慮が必要。
- ・直線的な護岸形状に可能な限りうねりや曲線（上下左右）を加える。
- ・石材は色彩景観に配慮して暖色系の石を選択すべき。
- ・石積みの護岸に緑を。

## 自然環境

- ・湿地、海浜性植物群落、グリーンベルトの形成により多様な環境を形成する。
- ・傾斜が緩やかな潮間帯の形成によって干出する、干潟、潮だまりを創出する。
- ・人の立ち入らない区間において、生態系の回復の観点から護岸前面の形状に変化をつける。

## 防犯・安全

- ・防犯上の設備（フットライト、SOSの装置）が必要。
- ・親水エリアでは誘導員（インストラクター）を配置し、その誘導に従うことを原則とすべき。誘導員設置ができないなら監視員を。それもできないなら立ち入り禁止の措置を。
- ・緊急時の連絡や対応ができる措置が必要。

## その他

- ・岩礁性海岸の方がつくりやすいと思う。
- ・浦安から市川へ歩いていける道をつくれないうか。
- ・護岸の検討は総合的な観点が必要。検討委員会の場を広げて他の検討組織や行政所管とも絡んでの検討が必要。
- ・バリエーションの可能性は、“護岸後背地の用地の確保”につきてしまうのではないか。越波対策も同じだと思う。

## 2) 護岸の施工状況について（石積みの工夫）

- ・順応的管理による、より良い断面の施工について、事務局から説明があった。

## 3) その他

- ・1月中旬に冬季生物調査を公開で実施する予定。

## 平成20年度「市川海岸塩浜地区護岸検討委員会」 第3回勉強会の開催結果概要

1. 日時 平成21年1月28日(水) 18時00分～19時30分
2. 場所 葛南地域整備センター 大会議室
3. 参加者 21名(委員8名、一般3名、県1名、関係者3名、事務局6名)
4. 座長 遠藤茂勝委員
5. 次第 1) 護岸バリエーションの検討について  
2) その他

### 6. 概要

#### 1) 護岸バリエーションの検討について

- ・前回第2回勉強会に引き続き、護岸バリエーションに関して意見交換を行った。

#### [主な意見]

- ・潮間帯をいかに増やすかが課題である。多様な生物が生息しやすくなる。
- ・砂場の干潟を強く要望する。
- ・砂浜の方がよい。安全性が高く、浄化能力も高い。
- ・ここの岩はカキだらけになってしまって、危険である。なるべく砂の方がよい。砂浜には、スロープが必要である。
- ・遊歩道に関し、起伏をつけることは車椅子に対して支障があるので、やめた方がよい。
- ・基本断面を変えてもいいのか。  
委員会としての意見ならば、検討するのも必要であると考える。
- ・最終的には、ふなばし三番瀬海浜公園のような砂浜を目指す、時間を考える必要がある。
- ・砂浜であればアオサが打ち上げられ、回収しやすい。
- ・砂を入れるにしても泥干潟に流出しないような設計が必要である。
- ・展望広場は、大胆にシンボリックなものをつくった方がよい。
- ・デッキなどは、メンテナンスも考慮しなくてはならない。
- ・背後のシンボルロードの延長に予定されている中央公園のあたりは、公園と護岸を一体として設計すべきである。
- ・公園の部分は、市と地元が一緒になって考えるとよい。
- ・バリエーションは、今の海岸保全区域の幅の中で考えていくべきである。

#### [傍聴者からの意見]

- ・バリエーションは、基本断面の範囲内で考えてほしい。これ以上、海を狭めないでほしい。

- ・ のり先に砂を付けるのはやめてほしい。海側にさらに張り出すことになるバリエーションは問題がある。生物にも配慮して、バリエーションを検討してほしい。

## 2) その他

- ・ 次回護岸検討委員会を3月上旬に開催予定。

## 平成20年度「市川海岸塩浜地区護岸検討委員会」 第3回モニタリング調査(第4回現地見学会)の開催状況報告

1. 日 時 平成21年1月15日(木) 13時00分～14時00分
2. 場 所 市川市塩浜二丁目護岸工事現場
3. 天 候 晴れ
4. 参加者 18名(委員3名、一般2名、県2名、関係者7名、事務局4名)
5. 配布資料 「平成20年度モニタリング調査項目」
6. 概 要 「モニタリング(生物)調査」  
潮間帯生物の観察
  - ・夏季調査と比較し、マガキの被度が高くなっていることが確認された。
  - ・ウネナシトマヤガイが2個体確認された。
  - ・水温が低い(8.6 )ため、のり先には魚類が確認されなかった。「現地見学会」
  - ・平成20年度護岸改修工事の実施状況を確認